

作家・大西巨人から、
文学研究の真の姿と
生き抜く力を
読み解く。

文学部
国文学科
講師

橋本 あゆみ

【学 歴】

2008年3月 早稲田大学第一文学部総合人文学科 卒業
2010年3月 早稲田大学文学研究科日本語日本文学コース修士課程 修了
2017年3月 早稲田大学文学研究科日本語日本文学コース博士後期課程
満期退学
2019年2月 博士(文学)早稲田大学

【職 歴】

2019年4月~2022年3月 大妻女子大学文学部 非常勤講師
2020年4月~2022年3月 青山学院大学文学部、明治大学文学部 非常勤講師
2020年9月~2022年3月 共立女子大学文芸学部、早稲田大学大学院文学研究科
非常勤講師
2021年4月~2022年3月 早稲田大学文学部 非常勤講師
2022年4月 愛知淑徳大学文学部 講師(現在に至る)



人間の心の機微を描くとともに、日本社会が抱える問題を追究し続けた、作家・大西巨人。その作品の源泉を探る橋本先生は、近現代の戦争文学を専門として、国文学科での教育・研究に力を注いでいます。学生にも大西作品の奥深さを語り、生きる力を養うヒントや、知識の継承による文学研究の重要性を伝えていきます。

私は日本の近現代文学の中でも戦争や軍隊を描く小説を主に研究しています。「なぜそんな怖い題材を」と思いませんか？

しかし、そういう極限状況での思考や行動にこそ、人間の本质が表れてきます。作家たちもそう思ったのでしょうか。自分の戦争体験を「書かずにはいられない」という強い思いのもと、作品にしてみました。

大西巨人という作家がいます。一般に有名ではありませんが、強烈な個性をもっていて、私は大西の長編軍隊小説『神聖喜劇』を中心に研究を続けています。アジア太平洋戦争に敗れた後、多くの日本の作家は、どれほど戦争がひどいものだったか、兵士を含む一般民衆がいかに苦しんだかを語りました。しかし大西は、ごく普通の人々が戦場では残酷な振舞いに走ってしまうという人間の暗部こそ、文学で深く考えるべき問題だと言います。被害の記憶に閉じこもり怖がっているだけ

ではダメで、戦争を起こす人間と社会の仕組みを知性で解き明かす必要があるということです。

このため、大西の書く文章は論理的で多少難しいですが、常に知的好奇心が刺激されるので私は好きです。大西の小説では日本の古典や外国文学、歴史や法律の専門書など、古今東西の実在文献がたくさん引用されます。主人公の兵士はそれらの本の内容から連想や思考を広げ、知恵と言葉を使って仲間と助け合ったり、理不尽な上官に対抗したりします。分野や時代を超えて、本を通じて幅広い知識が繋がりが、継承されることで、困難を乗り越える力になるのです。

これは、様々な知識を総合し繋がられる文学研究が目指すべき姿でもあると思います。自分なりに大西巨人と戦争文学の研究を深め、学生にも生き抜く力をお裾分けできたらいいなと思います。

橋本先生の主要著書・論文

- 戦後文学における「老いる身体」との対峙と逃避―有吉佐和子「恍惚の人」と大西巨人「迷宮」から 昭和文化研究 74 頁―88 頁 2023年9月
- 大西巨人「神聖喜劇」―論理のネットワークを駆けめぐる数奇な旅 ユリイカ 806 (特集・奇書の世界) 青土社 144頁―151頁 2023年7月
- 雑誌「文化展望」にみる「過去への反逆」の拒絶―太宰治、坂口安吾、齋藤史らの寄稿における戦中・戦後の切断と連続 戦争と萬葉集 3 46頁―62頁 2021年2月
- 大西巨人 文学と革命(分担執筆) 翰林書房 314頁―334頁 2018年3月
- 歴史の総合者として 大西巨人未刊行批評集成(共編) 幻戯書房 2017年11月

